

登録コード	EKA03900	開講年度	2026				
授業科目	特別な教育的ニーズのある子どもの支援体制					担当教員	上村 恵津子 他
英文授業名	Support system for children with special educational needs					副担当	奥村 真衣子・関 浩司・戸谷 健史
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年	1年
講義室				授業形態	演習	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】					【授業の達成目標】	
	2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ, 2 4 E Aカリ						
	子どもの多様なニーズへの対応力					機能的アセスメントの構造を理解し、子どもの情報を整理することができるようになる。 行動観察や機能的アセスメントにより、子どもの行動の意図や適切な対応を分析することができるようになる。	
	協働的な問題解決を可能にする人間関係構築力					支援体制の現状を把握し、その特徴と課題を検討することができるようになる。	
(2)授業の概要	本授業は、講義とフィールドワーク（以下F W）により展開します。 講義では、機能的アセスメントおよび問題行動への対応に関する講義を行います。 F Wでは、実際の事例に基づき、行動観察による子どもの伝達意図・適切な対応の検討、援助体制の実態把握と課題分析の検討を行うとともに、機能的アセスメントを活用した事例検討会の実践により効果的な事例検討会の展開方法を検討します。 担当教員が、小学校・中学校・特別支援学校の実務経験を活かして講義を行います。						
(3)授業計画	第 1 回：ガイダンス - 本授業の進め方・機能的アセスメントの意義と技法 - 第 2 回：F W行動観察（1） - 機能的アセスメントによる情報収集 - 第 3 回：F W行動観察（2） - 不適応行動の要因分析と対応 - 第 4 回：F W行動観察（3） - 校内体制の構築と関係機関との連携 - 第 5 回：事例検討会 - 機能的アセスメントを活用して - 第 6 回：特別な配慮が必要な子どもの理解と支援 第 7 回：F W特別支援学校での行動観察（1） - 機能的アセスメントによる情報収集 - 第 8 回：F W特別支援学校での行動観察（2） - 不適応行動の要因分析と対応 - 第 9 回：F W特別支援学校での行動観察（3） - 校内体制の構築と関係機関との連携 - 第10 回：問題行動への対応 - 不適応行動の要因と援助法 - 第11 回：F W事例検討会の実際（1） - 機能的アセスメントによる情報収集 - 第12 回：F W事例検討会の実際（2） - 不適応行動の要因分析と対応 - 第13 回：F W事例検討会の実際（3） - 校内体制の構築と関係機関との連携 - 第14 回：1年間のまとめ - 今後に向けて -						
(4)成績評価の方法	成績評価の考え方は、次の通りです。 ・ 授業の達成目標 ～ に関わる「授業実績」：50% ・ 授業の達成目標 ～ についての理解度を確認する「振り返りレポート」：30% ・ 授業の達成目標 ～ の到達度を確認する「最終レポート」：20%						
(5)履修上の注意	・ 第11～13回のF Wは原則としてチーム毎に行う。開催時間・開催場所・発表者は第5回の授業で決定します。 ・ 提出課題および提出期限等の詳細はE-ALPSに記載するので、E-ALPSを確認して下さい。 ・ やむを得ずF Wに欠席する場合には、事前に担当教員に連絡を入れて下さい。 ・ この授業は受講学生の主体性を重視し、観察・記録・意見交換等の参加型活動およびフィールドワーク（学外移動を伴う）を通じて学修を進めます。そのため、『信州大学における授業の出席に関する要項』に規定する学習の補充対象とする事由で欠席した場合であっても、欠席回と同等の学修機会を設定することが困難であり、学習の補充を行うことが難しい場合があります。 ・ 単位取得には、予習復習などの授業時間外の学修を行う必要があります。予習復習の具体的内容については、(11)をご覧ください。また、内容および提出方法等については授業で説明します。						
(6)質問、相談への対応および連絡先	上村：kamietu@shinshu-u.ac.jp (4243) 奥村：maio@shinshu-u.ac.jp (4206) 関：seki_hiroshi@shinshu-u.ac.jp (026-241-1180) 戸谷：toya_kenji@shinshu-u.ac.jp (026-241-1177)						
(7)成績評価の基準	「卓越している」：ねらいに示した ～ のすべての項目の視点から分析および検討している。 「かなり上である」：ねらいに示した ～ のうち2つの項目の視点から分析および検討している。 「やや上にある」：ねらいに示した ～ のいずれかの視点から分析および検討している。 「水準にある」：何らかの方法で分析および検討している。 ・ 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可						
(8)事前事後学習の内容について	・ 講義においては、授業に関する内容を自らが担当する事例と関連付けて検討し、その省察を授業後に提出して下さい。 ・ 第11～13回のF Wにおいては、あらかじめ、事例提供者は児童生徒の実態や支援体制に関する情報収集を簡潔にまとめておいて下さい。参加者は機能的アセスメントの構造を復習してから参加して下さい。F W終了後には、事例に関する感想と自分の実践と照らし合わせての感想をまとめ、E-ALPSで提出して下さい。 ・ この授業は90時間の学習を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。						
【教科書】	指定しない						

【参考書】	授業の中で適宜紹介する
-------	-------------